地域移行 通信

第１４号
平成２２年１１月発行

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。

地域自立支援協議会・地域移行部会が開催されました！

今年度第３回目の地域移行部会を、９月１５日に開催しました。区内外から４５名の方に参加していただきました。ありがとうございました。

この部会は、毎回テーマを設け、障害者が安心して地域で住み続けるための基盤整備について検討しています。今回もフロア一体となって、積極的に意見交換をしました。

９月１５日の主な内容

☆『地域定着に向けた社会資源を考える』
～相談支援事業所の実際～

☆ 情報交換
東京都精神障害者退院促進支援事業
など

東京都精神障害者退院促進支援事業の進捗状況

サポートセンターきぬたとＭＯＴＡが東京都事業を受託して３年目になります。広域化をキーワードに、受け入れ先の関係機関と連携を図るため継続した働きかけを行っています。

地域生活支援センターMOTA

最近、関わりがあった方の報告

- アスペルガー障害の方を支援していますが、ご本人のこだわりがあり支援に苦慮しています。また、アスペルガーの方に適するサービスが少ないのが悩みです。
- 長期入院中にお母さまが亡くなった方がいらっしゃいますが、これまで（お母さまに）毎日電話をかけるほど関係が深かったので、今後どのようにサポートしていくか検討しています。
- 「ピアサポーターには話ができる」という利用者の方も多いです。この活動をどのように広げていけるかが課題です。

（宮本さん・玉置さんより）

サポートセンターきぬた

最近、関わりがあった方の報告

- アパートを見つけるまではスムーズでしたが、退院後に金銭管理に問題があることが分かり、アフターフォローで苦慮している方がいます。日中は作業所に通っており、誰と、どのように役割をとっていくのか課題だと思っています。
- 退院後、相談支援事業所につなげかったのですが、ご本人が希望しなかったため退院支援コーディネーターが 2 年間訪問していた方がいらっしゃいました。退院後に相談の軸をどのように移していくかが課題です。

（金川さんより）

【協力医療機関相談員より】
院内での様々な役割が増え、ご本人の細やかな支援まで手が行き届かないことがあります。これまでのネットワークを活かしながら退院促進支援事業コーディネーターや相談支援事業所、保健師などと一緒にフォローしています。

【協力医療機関相談員より】
ご本人に“これがしたい”という希望がなく、話がなかなか深まらなかった方がいらっしゃいましたが、都立中部総合精神保健福祉センターのホステルを利用することで、病院では見られない部分が分かったのでとても助かりました。

【作業所職員より】
退院促進支援事業を利用し退院した方が、作業所に通所することを楽しみにしてくれています。
これからもご本人が安心して通えるようにしたいと思っています。

＊今回は、世田谷区セーフティーネット支援対策事業の報告はお休みです。

（平成23年）1月26日の地域移行部会は、十勝障がい者支援センターの門屋さんをお招きしての勉強会です。どうぞみなさま、ご参加ください。

9月のテーマは、「地域定着に向けた社会資源を考える」

～相談支援事業所の実際～

相談支援事業所は、障害者自立支援法による地域生活支援事業の相談支援として位置づけれています。区内に5ヶ所ある事業所から、それぞれの特徴やセールスポイント、事例、現状での課題などを報告していただきました。

三軒茶屋プリズムから　■本間さん

●プリズムは、事業を開始して丸７年になります。電話相談、来所相談、同行や家庭訪問などを行っています。情報を提供するだけでなく、施設見学や不動産屋回り、同行など一緒に行動することで、ご本人を後押ししたいと思っています。
●同じフロアに、「しごとねっと（就労支援）」、「クローバー（就労生活支援）」があるのが強みです。時間的にも、物理的にもタイムリーにつなげることができます。
●うつ病の方の自助グループ、区内作業所の説明会（3ヶ月に１回位）なども実施しています。
●職員は、常勤２名、非常勤２名です。同行や家庭訪問等が重なり、職員が１人だけのときも多く、飛び込みの相談はお断りしなくてはならないこともあります。せっかく足を運んでいただいた方に申し訳ないので、プリズムを紹介するときは「事前に予約を」と伝えていただきたいと思います。
●いろいろな相談があり典型的な事例はありませんが、例えば、「作業所を利用したい」「障害年金や障害者手帳、自立支援医療の手続きが分からない」「部屋を探している」「主治医とそりが合わない」などの相談があります。買物やキャッチボールなど、ご本人が興味を持っていることを一緒に行いながら、関係を築いていくこともあります。
●事務局用と相談用の電話が共同のため、電話がつながりにくく、利用者や関係者の方々に申し訳なく思っています。

自立生活センターHANDS 世田谷から　■横山さん

●ＨＡＮＤＳは、20年前から身体障害者を中心に自立に向けてのサービス提供を実施してきました。人によって、「家族からの自立」、「精神的自立」、「経済的自立」など、「自立」のイメージが違うので、ご本人と確認しながら支援しています。
●支援にあたっては、ご本人がどのような生活をおくりたいのかを引き出しながら、日常生活が楽しめることを大切にしています。当事者スタッフが対応しているのも特徴です。また、支援者側の一方的な見方にならないよう、いろんな角度から見ていく必要があると考えています。
●対応が難しいケースは、行政に情報提供し、連絡を密にして、障害者が住みやすい地域になるよう一緒に考えていきたいと思っています。
●人権問題に関係する事例として、家族から監視されているという相談がありました。手紙を勝手に開けられたり、年金を使われてしまったり、暴力行為もあるという状況だったため、当事者弁護士に支援を依頼しました。
●都外施設に入所している区民が多かったのですが、地域に戻ってこれるようになってきたと思います。

なかまっち相談室から　■上原さん

●なかまっちは、身体障害者自立体験ホームとして地域移行に携わってきましたが、２年前から相談支援事業を開始しました。最初は、自立体験ホーム卒業生の相談に対応していましたが、身体障害との重複障害の方、生活保護受給者の方など徐々に利用者が広がっています。
●家庭訪問による相談対応も多く、区内どこにでも出向いています。
●事務所で自動車を所有しているので機動力があり、職員のフットワークが良いところが強みです。
●職員は非常勤２名です。職員が同行や訪問で外出が多いので、飛び込みの相談には対応できないこともあるため、なかまっちを紹介するときには「事前に連絡をするように」と伝えていただきたいです。
●家庭内で、それぞれの方々にいくつかの課題があるという事例もあり、絡み合った糸をひとつひとつ解きほぐすように支援しています。
●保健福祉課、健康づくり課、生活支援課などの行政窓口、ヘルパーさんやケアマネージャーさんとの連携も欠かせないと感じています。

サポートセンターきぬたから　■山上さん

●相談支援事業の他、地域活動支援センターⅠ型や、都の委託を受けて退院促進支援事業を実施しています。
●毎日通所し、のんびり過ごす場所ではありませんが、地域活動支援センターを併設しており、会員登録をしなくてもプログラム活動に参加することができます。パソコン、体操、女性のみのピアなどいろいろなプログラムがあり、外出したいけど自信がない人にとっても、興味があるプログラムからだと参加しやすいのではないかと思っています。プログラムをきっかけに来所され、相談につながる場合もあります。また、どこに住んでいても、どこの病院に通っていても利用することができます。
●商店街の中にあり立地は良いですが、建物の３階に事務所があり、エレベーターがなく、バリアフリーになっていないので利用できない方もいらっしゃいます。
●職員は、常勤１名、非常勤１名です。マンパワー的にきついと感じています。
●利用されていた方のなかには、外出のきっかけとしてパソコンのプログラムに通い、少しずつ人との関わりに慣れ、次の施設につながった方もいらっしゃいます。
●個々のペースにより、利用する頻度や関わり方などは異なってきます。仕事や通院の前後に寄って一服していくなど、淡い感じで利用する方もいらっしゃいます。

地域生活支援センターMOTAから　■杉山さん

●ＭＯＴＡは、「地域活動支援センターⅠ型」「相談支援」「退院促進支援事業」「夜間休日電話相談」と４事業を担っています。居場所機能を併設し、店舗があることも特徴です。
●もともと、当事者と一緒に設立した施設です。商店街の中にあり、ＭＯＴＡの母体の法人理事が商店街の理事長でもあるので、地域活動などにも積極的に参加し、交流しています。
●利用希望者のなかには、入院中やデイケア、講演会などでＭＯＴＡの利用者と知り合い、口コミで聞いてきたという方もいらっしゃいます。
●施設が狭く、バリアフリーになっていないため、車椅子だと活動が制限されてしまうことがあります。
●今年4～8月で新規受付70人、内20人が見学しました。見学者のうち、地域活動支援センターへのおためし登録13人、本登録は１人です。
●「居場所があるので」と言って利用希望で見学された方でも、最終的には利用に至らない方も多いです。最初の相談窓口で、ご本人の希望に合わせた紹介ができているのか気になっています。

フロアーのみなさんとの意見交換をしました！！（一部をご紹介します）

○地域移行における相談支援事業所の役割とは

▸▸【プリズム】　ご本人が「何をしたいのか」を引き出す、“地域定着の滑り出しの伴走者”としての役割が担えればと思っています。

▸▸【ＨＡＮＤＳ】施設を出ることイコール「自立」ではなく、生活の主体は「自分」であると認識してもらえるように支援しています。そのためには理解のある人と横のつながりを増やしていくことが必要だと思っています。

▸▸【なかまっち】ご本人の生活の中で、ネットワークが機能するように見守っていく役割があると思っています。横のつながりが重要で、フォーマルな機関だけでなく、ご本人が行く喫茶店や大家さんもネットワークに入れていいのではないかと考えています。

▸▸【きぬた】　地域定着の全ての役割を担うのではなく、一つの施設として自分の得意な分野で支援していきたいと考えています。支援チームの一員として、中心的な役割を担うこともあれば、“脇キャラ”という位置づけのときもあります。

▸▸【ＭＯＴＡ】　受け入れ口は幅広く、退院促進支援事業からの地域移行だけでなく、例えば、ひきこもって何年にもなる方も対象となります。ＭＯＴＡがお休みの日に第２のＭＯＴＡと言って、ファーストフード店などに集っているメンバーもおり、インフォーマルな場も社会資源となっているのだと感じています。

○相談支援事業所として課題として感じていることなど最後に一言

▸▸【プリズム】　相談内容がぼんやりした状態でもよいので、まずは相談に来ていただきたいと思っています。

▸▸【ＨＡＮＤＳ】話しやすい場所づくりを心がけています。同じ障害で、年齢が近いスタッフが相談をうけるようにしたいと思っていますが、該当するスタッフがいないこともあります。

▸▸【なかまっち】職員を増やしたいです。今は、当事者の支援に集中していますが、実は家族にも支援が必要だと感じています。また、ヘルパーさんへの支援も必要となることがあります。

▸▸【きぬた】　主治医から「もっと手厚い関わりを」と求められても、ご本人は「(関わりを）嫌だ」ということもあり、関わるタイミングを待っている場合があります。

▸▸【ＭＯＴＡ】　『「相談支援」って何だろう』と一緒に考える場があり、そこからネットワークとしてつながっていくとよいと思っています。また、支援者への支援も重要です。メンタルヘルス、人材育成、福利厚生、報酬なども整っていかないと疲弊してしまいます。

▸▸【フロアから】あんしんすこやかセンターで関わっているかたで、ご主人が亡くなったあと、統合失調症が再発した方がいらっしゃいます。通院も不定期で、薬も飲んだり飲まなかったり、社会資源にもつながっていなかった方です。ヘルパーさんへの暴力行為もあり困っていたところ、プリズムに相談したらとても丁寧に一緒に対応してくれました。関係者としても、相談支援事業所の人員を増やしてほしいと思っています。

今後の開催予定

- **１月２６日（水）午後２時～　セミナールームＡＢ**
- **３月１６日（水）午後２時～　セミナールームＡ**

キャロットタワー内（三軒茶屋）です

＊関係機関のみなさまには、各回とも開催前に“開催のお知らせ”をお送りしています。送付のご希望がありましたら、下記担当までご連絡ください。

ー次回以降も引き続き、みなさまのご参加をお待ちしていますー

編集・発行　世田谷保健所健康推進課精神保健担当
電話　03(5432)2442
Fax　03(5432)3022